

# アイパル通信

2005

7

特集  
寄稿I-PAL NEWS  
Information(県内イベント情報)

アイパル(I-PAL)の意味

アイは愛や国際交流(International Exchange)を、パルは友達や仲間という意味を表し、アイパル香川が国際交流に係るひとの拠点となるイメージを表現しています。

特 集

## 外国人から見たかがわ

5月17日、アイパル香川で「アイパル香川開館10周年記念 国際講演会&パネルディスカッション」が開催されました。第一部の国際講演会では、作家で中部大学教授の小中陽太郎さんに「国際交流大絵巻～源氏物語から源内まで～」と題して講演していただきました。第二部は「外国人から見たかがわ」をテーマにパネルディスカッションを行いました。ここではパネルディスカッションの内容を以下にご紹介します。コーディネーターを務めてくださったのは香川大学大学院地域マネジメント研究科長の井原 理代さん、パネリストは小中 陽太郎さんの他、5名の香川県国際交流員です。

**井原** それぞれ自己紹介と国際交流員の仕事の内容について紹介してください。

**黄(コウ)** 中国国際交流員の黄 保中(コウ ホチュウ)と申します。中国の陝西省(せんせいしょう)西安市(せいあんし)の出身で高校生の時、日本のアニメ(一休さんなど)やテレビドラマを見て、歴史上でも関わりの深い日本に興味を持ち、日本語を勉強しようと決心。その後、大学で日本文学を専攻し、芥川 龍之介、森 鴎外、川端 康成、夏目 漱石などの小説を読み、読めば読むほど日本人のことが理解できるようになり、日本という国を好きになった。

去年から国際交流員として香川県にいますが、中国にいた時も国際交流の仕事に長く携わってきたので、香川県と友好関係を結んでいる中国陝西省との友好交流の仕事の他、国際理解講座の語学講座その他の活動を通じ、県民のみなさんに中国の風俗習慣、文化を紹介したり、県民とのふれあいを通じ、日本のことを勉強させてもらっている。いわば、本当の草の根レベルで中日両国の友好交流、相互理解を図るために今、頑張っている。

**アマンド** オーストラリアのシドニーから参りましたアマンド・チャンと申します。

中学、高校、大学と日本語を勉強し、去年の8月に香川に



来てアイパルで働き始めた。

国際交流員として翻訳や通訳の仕事もあるが、いちばん大事なのは様々な県民との触れ合い、お互いに自分の国のことや生活面で交流を促進すること。英会話の授業を教えたり、県内のいろんな施設で国を紹介したりしている。最も楽しいことは県内の小学校を訪問したり、国の紹介をして子供たちと遊んだりすること。アイパルを訪問する生徒たちや外国人の方々とは話すことも好き。アイパルでの仕事は毎日違って、様々な人に出会えるので大変面白いと思う。

**鄭(チョン)** 私は韓国の済州(チェジュ)から去年4月に参りました鄭惠敬(チョン ヘギョン)と申します。チェジュは、日本の小泉さんが韓国訪問した時に盧武鉉(ノ ムヒョン)大統領との会談があり、その時にチェ・ジウさん(「冬のソナタ」のヒロイン役の女優)と発音が似てるんじゃないかと話したことがある、韓国の南の島。

この仕事は韓国で一定の試験を受けて、「日本で国際交流の仕事をしたい」と志願するのだが、その時に、さっきも「草の根レベルの国際交流」の話が出たが、私も住民の中で、政府とは違う活動(交流)ができるんじゃないかという希望を持ってこの仕事を志願した。その私の希望に従って小学校や公民館、アイパルなどで韓国を紹介したり、アイパルで定期的に韓国語講座を持っている他、通訳・翻訳の仕事に携わっている。もっと韓国が日本にとって親しみやすい国とか、隣の仲の良い国というイメージを深めていくことができれば、それが私の役目じゃないかと思う。

**サム** イギリスのリバプールから参りましたローゼン・サムエルと申します。

私の仕事はほとんど県庁の方で通訳とか通訳の仕事が多いのだが、それ以外にもみなさんと同じような国際理解講座や英会話の授業もやっている。

香川とのご縁は非常に長く、17年程前に屋島西小学校に半年ぐらい通った。母が香川県の初代国際交流員だった。中学

・高校と牟礼町でホームステイを経験し、現在3年目の国際交流員として県庁に勤めている。

**エレナ** アルゼンチンのラ・プラタ市から参りました村上エレナと申します。私はそろそろ2年になるが、アイバルに勤めている。翻訳などの他、小学校訪問、公民館訪問でこちらの県民の方、子供たちと触れ合うことをすごく楽しくさせて頂いている。スペイン語の講師も務めているが、その中でも県民の方と触れ合って、いろんな考え方や暮らしの中の違いを話し合っ、いろいろ交流させて頂いている。

私は日系2世として生まれてアルゼンチンでずっと育ってきた。日系の血を引いているところで近いところはあるが、しかし、暮らしの中でいろいろ違いもあり、こういうところは大事に持っていたいなあとという考えもあるが、日本の方の大事にしているものもプラスになるんじゃないかと思、ずっとそういうのも勉強させて頂いて、これからも大切に持っていきたいと思う。

**井原** みなさんこれほど日本語が使えると、日々の生活では自分が外国から来ているんだということを忘れて生活されているのでは？あえて自分はやっぱり外国人だと感じる（意識させられる）時は？それが国際交流にとってはひとつの疎外要因なのではないかと思うのですが。

**黄** 同じ東洋人なので街を歩いても目立たない。「郷に入りては郷に従え」のことがわりと通り、一県民として覚悟を持って生活しているので、特に自分が外国人とかそういう意識を持たずに生活している。できるだけ地域に溶け込もうと思うが、日本人と接する時、まわりの人はどのくらい私たちのことを受け入れるか不安も抱いている。でも、できるだけ積極的にみなさんと付き合わせていただいている。

友達から聞いた話だが、東京で買い物に行った時、外国人だとわかったとたん店員さんの言葉遣いが急に変わったり、サービスが悪くなったりして、友達はすごく傷ついたそう。外国人だったらサービスが違うというのは疑問に思う。

**アマンダ** 国籍はオーストラリア、両親は中国人、私は香港で生まれた。アジア系なので外国人としては目立たない。しばらく話して母国語が英語だとわかると、すぐ英語を教えてくださいと言われる。この時に自分が外国人だと感じる。特に、本当に友達になる気がなく、英語の練習をするつもりだけで友達になりたい。逆に、外国人と話す時に



“Where did you learn to speak English so well?”(どこでそんな流暢な英語を勉強しましたか?)と聞かれる場合も。

**鄭** 私もアジア系、日本人と変わらない顔立ちなので、普通に日本語を使って日本人と同じように生活している気持ちでここで一年過ごしてきた。去年、休暇で他の県に遊びに行った時に、結構高いレストランに入ったのだが、友達と韓国語で話していたら、いきなりサービスが・・・なんていうかヘンになった。日本で初めての体験、東京で1年過ごした時にもそんなことはなく、えーっ!?!と、とてもとてもショックで悲しかった。

**サム** 他のパネリストと違い、私は顔を見れば外国人とわかるのだが、自分が外国人であることを忘れがちで、スーパーなんかに行っても違和感がない。昔、17年前に来た時と比べて変わったと思うのが、当時は電車の中で、「おーっ、外国人ですね」とか、指を指すまではめったになかったが、そういうこともあった。道を聞こうと、日本語で「すみません」と話しかけたら(顔の前で手を振って)、逃げていく人がいたが、最近はない。国際化されてきていると思う。

留学していた時、お花見担当になって朝いちで場所取りに行った。木から少し離れた桜がよく見えるところで場所取りしていたら、先輩に花の下じゃないと、と言われた。その時は感覚の違いを感じた。

私の出身地のリバプールは港町で、アジア、インド、中国、アフリカ諸国の人々が昔から非常に多い。「外国人」という意識はイギリス人はあまりなく、顔が中国人であるとしても曾々おじいさんが中国から来たことで何世代もたっているのだからイギリス人として見ている。国際交流についての考え方が違うってことは感じている。

**エレナ** 私の場合、純粋な日本人の血が流れているので、外見はもちろん日本人として見られる。私が覚えた日本語は家庭内で覚えた日本語。時々、わからない単語について聞くと、「えーっ、日本人なのになぜわからないの?」って言われるかもしれないって思いも。「私は外国の者です」って断りの言葉を入れないといけない時もある。アルゼンチンはいろんな国の出身者がいる移民の国。私も国ではアルゼンチン人として扱われ、こちらで日本人の顔をしているのに日本人とは違うというのがある。そういうのがちょっと時々、心の中で「違うんかなあ」と思うこともある。

**井原** 考え方や価値観が違うからこそ豊かになると思うんですが・・・日々の生活の中では地域に溶け込んで地域の住民として暮らしていけるような地域づくりがほしいなあと思うんですが。

**小中** どうやって仲良くなれるか難しいが・・・社会にその人がいることで幸せが増すように、僕が(外国へ)行った時にはそうしたいし、僕らもせっかく違う国の人や文化の人がいたら、その文化を学ぶことで我々の生活がいい方向に向く、というプラス思考を持ちたい。珍しいパンダが来たとか、珍しい日本ギツネが行ったじゃなくてね。

名古屋の大学で教えていて、駅から15分ぐらいバスに乗る。その時、外国人はすぐわかる。どうしてかって言うと、「先生、おはよう」って言う。日本人は絶対あいさつしない。席をゆずらない。日本人同士ペチャクチャおしゃべりして、教え子だとあわてて寝たふり。わずか15分のバスだよ。僕も悔しいから代われとは言わないで立ってる。

韓国人、中国人だと教え子でなくても、サッと席を立つ。「先生、どうぞ」お年寄りや先生だと思うと代わる。中国人、韓国人は目上の人を敬う習慣があるからと韓国人は言うが、そんな難しいことじゃない。年寄った(自分でそう思わないようにしてるが)先生を見たら席を代わるって常識でしょ。

留学生を受け入れて良かったな。教室ではてこずるが、50人のバスに1人、次は2人乗ってくれないかな。僕に代わってくれなくてもいいから。

すれ違ってドンとぶつかったら、どんなに背の高いアフリカ系アメリカ人でも“Excuse me!”、“Pardon!”って必ず言う。日本人で肩が触れて「失礼!」と言う人はいない。なぜかわからない。アメリカ人が優しいとは私は思わない。

人間は本来、凶暴なもの。そこにいる人は強盗かもしれない

い。だから、ぶつかったら「自分は強盗じゃない」と表明する社会と、日本のようにぶつかった人は必ずいい人だという誤解というか前提の社会と。

外国人のひとが加わることで日本の社会に摩擦が起こる。その摩擦が我々の至らないところを教えてくれるんだと・・・そういう貴重な人である。その人のいい風習を教えてくれると尊敬する。逆に我々が向こうに行った時は日本の持っている良い風習を教える。外国人が来た、僕らが行ったことでその社会が豊かになると良いと思う。

**井原** 香川の印象を一言ずつお願いします。

**エレナ** 県民の方々とのふれあいの中で、困った時はすぐに優しく手をさしのべてくれて・・・それを身にしみるほど体験した。その反面、すぐに深くは関係を持ってない。友達になろうとしてもちょっと距離感がある。それと、この街を作られた方はすごいと思う。自然の中にある街。港が近く、とても素敵な場所がたくさんある。私の街（ラ・プラタ市）は計画都市で、公園があり緑は多いが平らな街で、景色を見たいと思えば近い海岸で500km、山は1300km先、港町はさらに90km走らないと見えない。こちらに住んでいる方は幸運。

新しく建てられた建物、例えば、シンボルタワー等のお店が活かされているか？これから楽しもうという時間にお店が閉まり始める。アルゼンチンは夜が始まるのがだいたい10時から。こちらは街の中で遊びに出ようと思うと、店が限られ、そこへ行く道も暗いところが多く、すごく怖いし、人々がいない寂しい。

**サム** 香川といえば、田舎というイメージだが、私の中ではそれは悪いことじゃない。なぜかという、外国人から見た日本というとすぐに浮かんでくるのは京都、奈良など伝統のある街。しかし、京都は特にゴチャゴチャして美しい庭園も鉄筋コンクリートやネオン、電信柱に囲まれて、「借景」を活かすのもこれからもっと難しくなりそう。

それに比べ、香川県は八十八ヶ所のお寺へ行くと、自然に囲まれてすごくきれい。外国人が想像する伝統的な日本のお寺、神社のイメージ。それはとても素晴らしいこと。八十八ヶ所に限らず、琴平の金丸座など香川県は伝統を大切にしたい方がいい。日本中どこへ行っても都市化され、そういうところは少なくなっている。これからの香川のひとつのイメージとして、日本の伝統が残っているようなところ、というのが大事だと思う。

**鄭** 私の故郷は済州（チェジュ）という島、香川も四国という島の一部だが、チェジュととても似ているところが多く、故郷のようなイメージ。商店街を最初、来たばかりの時に歩いていると、向こうの知人にそっくりの人を見かけ、つい振り返ってしまうことも多かった。そんなこともあり親しく感じる。

1年たった香川県のイメージは美術的な街、おしゃれな街のイメージ。直島の“家プロジェクト”、小豆島、県庁、イサム・ノグチの美術品が庁内にあったりして、身近で美術品が見られるおしゃれな街・・・自慢の街になった。

**アマンダ** 国際交流員となる前に2回、留学生として来日したが、名古屋の大都会だったので、香川の高松に住むことに

なり、日本のどこなのか、どんな街なのかかわからず、少し心配した。住んでみたら、香川は生活しやすいところで人々もすごく親切だと思う。山もあるし、海も見えるし、自然が多くきれいな街だと思う。

**黄** 一言で言えば「山紫水明」、香川県はこじんまりした小さい盆栽のように見える。緑、海、川に恵まれたところ。郊外の田園風景と市街地の現代的な建物の調和もうまく取れている。東京から香川に戻ると不思議とホッとする。生活していて落ち着き、ゆとりを感じられる。

西安は風景がまったく違う。スケールは大きい、中国の内陸部で黄土高原が広がり、黄砂が非常に激しく、こういう緑いっぱい葉っぱ（と窓の外を指しながら）は、あまり見かけない。ホコリがいっぱいたまって黄色になっているところも多いし。こちらでは毎日良い空気を吸って楽しく過ごしている。

香川県民は親切で温かい。私は休みの日に近くの屋島へよく登るが、見知らぬ人に声をかけられたり、お互い励まし合ったり。それを温かく感じ、つい何度も登ってしまう。

**井原** 香川の良さを活かしつつ、にぎわいのある活力のある香川になるために、国際的な視点からアイデア、提言をお願いしたい。

**黄** 香川県の独特な文化、特徴を日本国内のみならず、世界に発信した方がいい。全国ブームとなったさぬきうどんだけでなく、素晴らしいところがある。

PRして観光してもらおう。緑の豊かさを活かす。「花の街」「緑の街」という都市づくり。観光業は環境に優しい産業という点からも香川にふさわしいと思う。

グローバル化の進展に伴い、香川でも国際化が進むと思うが、日本人のライフスタイルは西洋文化の影響を結構受けていると思う。現在、中国とまったく同じ問題に直面している。グローバル化=西洋化ではない。あらゆる文化（の長所）を取り入れるのが国際化。日本は素晴らしい伝統・文化を持っている。自分の独特な文化を無くさずに、それをぜひ大切に守っていただきたい。

**アマンダ** 私も香川の魅力や伝統を日本中、または世界中に紹介したらいいかなと思う。県外だけでなく、県内の人々にもいろんな施設やきれいな公園があると宣伝したらいい。あちこちの公園を通ったことがあるけど、人がいなくて寂しいし、もったいないので。情報を英語だけでなく、いろんな外国語で発信したらどうかな。

**鄭** 韓国ではワールドカップの時、私もちょうどソウルにいて、道路上でみんなで集まって応援したり、お店でも一緒に集まるスペースを提供してくれた。商店街にも似たような場所ができたようで、そういうところをもっと活かす。私は野球好きなのだけど、“ガイナズ”とかできたから、それを一緒に応援する場所ができたなら楽しいかな。

**井原** そういうところはもう少し夜遅くまでみんなが楽しめたらいいですかね？

**鄭** 最初、高松に来てちょっとびっくりしたのは7時になると暗くなる。行くところが全然なくてちょっと悲しかった。少なくとも9時までは店を開けてくれたらいいな。

**小中** 日本の中では港町だから、これでも日本のこの規模の都市では夜遅い方。日本人から見ると、中程度よりはちょっと

と遅い方に寄っていると見える。

**サム** 伝統的な、香川にしかないようなものを県内外、国内外にうまくPRすればイメージアップにつながる。サンポートも良いが、「なつかしい故郷」のイメージで。日本一長い商店街とか、よく言われるが、大きさより集中していること。鄭さんはああ言うけれど、本当は（店）遅くまでやっている。ただ、日本の店は中と外があって、道に面していない。イギリスやフランス、イタリアやドイツでは広場があって、そのまわりにレストランやカフェ、バーがある。店から人があふれる感じで、店の中だけじゃなくまわりの地域にもぎわう。（日本の場合）にぎわってないわけじゃなく、それは“中”にある・・・それが文化の違い。

あと、日本の生活・・・イギリスは5時になったら帰る。翌日提出しないといけない仕事があればね。そして、6～11時頃はパブで飲んでいたりする。日本では（会社）遅くまで残った方がいいというイメージがあって、そこから直接家に帰って食事して寝るという現実がある。フリータイムは短くなる。

リパブールには“Concert Square”という広場がある。ベンチやテーブルがあってみんな普通に座れる。昼間は買い物しながら休んだり、夜はパブでビールを飲んで、出たらそこらへんでちょっと話をするスペース、そういう空間。それは非常に良い考え方かな、と思う。

**エレナ** アルゼンチンもイギリスと似ている。店が開いている、その外にもお客さんが来れるような場所があり、その景色がにぎわって見える。

外で何かするというのがアルゼンチンが多い。自由時間があれば、公園で友達と集まって豊かな時間を過ごす。若い子たちはサッカー。もっと年上の人は座ってリラックスして話し合いながら、マテ茶（アルゼンチンの伝統的なお茶）を飲む。こちらは仕事が終わったら、家が宴会、飲み会へ。閉まった場所から開まった場所へ。

香川のいいところはたくさんある。それを大切にしてほしい。自然、県民性、文化・・・私は自然が好きで山とか行って誰もいないとさみしい。大切にするというのはその場所へよくよく行って楽しむ。

**井原** 小中先生、高松の、香川県の、あるいは、四国のこれからの地域づくりについてどんなことを大切にしたらいいか、まとめていただけますか？

**小中** “ハレ”と“ケ”って言葉がありますよね。ハレは結婚式やお祭り。ケは日常性。

香川の県民性は心の優しい、日常生活を大事にする、おうちに早く帰るのもそうで・・・美しい風土、海、自然に恵まれてこういう穏やかな人柄、宗教的風土の中から生まれてきたと思う。香川県は芸術、焼き物も含め美術・・・丸亀の猪熊弦一郎あり、東山魁夷もおじいさんのご縁がありますが、逆に、香川にないものといえば「演劇性」、ハレとケの“祭り”ってのがない。なくもないでしょうけれど、徳島の阿波踊りや高知のよさこいのようなのは・・・豊かで優しい人だから日常的にいいんですが、食べ物ひとつとっても、おうどん、てんぷら（さつま揚げ）といった風にすべて日常性のもので、毎日食べても飽きないけど、一生に一度食べてみたってもんじゃない。

どうして夜早いのかってあったけれども、欠けているのが演劇性で、爆発のようなものを若者は求めていて、爆発が阿波踊りならいいか、博多どんたくならいいのかはわからないけれども、ここに活性化があるとすれば、祭りだと思う。

参加型の行動・・・地域、日常でいいから、いっぺんに阿波踊りまでいなくていいから、いろんな国の人を交えて一緒にそれぞれの祭り、イベント、パフォーマンス性・・・足りなくはないんでしょうが、見えない。

美術性、思想性、小説は発展しているけれども、爆発のようなものがない。県が主導したってうまくいかないんで、地域の中からイベント参加型の行事をたくさん作っていく、音楽会やスポーツ大会であるかもしれないし・・・。

祭りの思想と、サムさんの言う広場中心型の都市づくりと・・・日本の行政主導かつ農耕社会の集散地としての都市づくりの中で、我々はもう一度、広場型の都市づくり、結集軸が求められているのかな。ウズベキスタン（の暴動）や、中国で起こった反日デモは困るが、何か意見がある時は広場へ出るという文化と、何か事情があれば内に鍵を閉ざしてじっとして復讐を誓うという赤穂浪士の日本人とは違うが、ちょっと広場型、あるいはハレとケで言えばハレ型、イベント型の参加というのを提案したらどうでしょうか？

**井原** キーワードは「広場中心型の都市へ」、その中でイベント型の様々な仕掛けが必要なのではないかということも頂戴したが、私も今日何いながら思ったことを一言で言うとするれば、「内なるものを外に」・・・そういうパワーが必要なのではないかと思った。

街づくりのひとつの特徴はこれもたぶん、「内なるものを外に」。例えば、家々の庭の美しさを街路に向けて作っている。あるいはにぎわいを外に向けている。その意味では、屋内の美しさ、屋内のにぎわいを外に、地域全体にもたらしめている、というのが外国の中では大変印象深く思っていたので、今日、サムさんが近いことをおっしゃってくれた気がした。たぶん、そういうにぎわいが広場の中に集結されるとパワーが生まれるんであろうと思う。

日本人っていうのはややもすると、内に内にと風にもこのように、大切にするという性格があるかと思うので、この際、家々のことにもぎわいも外に向かって発信する。

それはひいては香川県の良さを世界に向けて発信する、ということにつながるのではないかと思うので、今日いただいたことを参考にしながらこれからの街づくりを考えていきたいと思う。

最後にもうひとつ、「外国人と感ずることがたまにある」、それがぜひのような、そういう地域になるようにみなさんのご理解をいただきたい。

ちょうどアイパルが開館した10年前、私は1年間近くドイツに暮らした。その時に、ドイツではどんな国際交流に取り組んでいるのだろうと、肩に力を入れて見回していたが、いつのまにか肩の力が抜けてしまった。特別に国際交流なんてないんじゃないか。日々お会いする方が髪や肌の色、言葉の違う人々もみんな地域の中に溶け込んで生活している、その居心地良さが忘れられない思い出となった。香川県もぜひそんな風に特別に「国際交流」と言わない国際交流が進んでほしいと願う。

ぜひ国際交流員の方々には、どんどん地域の中へ入っていただきたい、それと同時に今日お見えくださった地域のみなさんは国際交流員の方々を友人として迎え入れてくださって明日の地域づくりをどうしたらいいか、明日の自分たちの街をどうしたらいいかということと一緒に考えていっていただきたい。



# ジェームズ・ボンドを香川に

—007 映画ロケ誘致の夢—

## 直島に007小説の資料館

香川県や直島町、関係諸団体では、これまで人気スパイ小説007「赤い刺青の男」の映画化に向け、「007ロケ誘致大作戦」を積極的に展開してまいりました。これまでの活動を通じて、直島の存在や香川県の映画誘致活動に対する姿勢は、広く全国に知られるようになってきています。昨年11月には映画化とロケの誘致を目的にした署名活動で、目標の署名5万人も達成しました。

しかし、現実には、直島を訪れても「赤い刺青の男」の舞台であることを紹介する施設は全くありませんでした。

そこで、007小説の舞台として登場した島という事実を観光客をはじめとする来島者に紹介するとともに、整備の過程を広く全国に情報発信することにより、映画化に向けた気運を醸成していくため、小説「赤い刺青の男」と小説の世界の007に関する資料を展示する施設を開設することにしました。

整備に際しては、税金を投入し新たな施設を建てるのではなく、既存遊休施設である元縫製工場を再利用することとし、地元有志らを中心に整備委員会を立ち上げ、整備のための募金を募り、地域住民、画家や建築家、デザイナーが協働し、手作業による付加価値の高い新たな地域資源の創作に努めました。

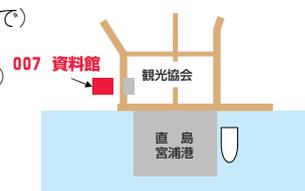
007小説の資料館は、全国でも珍しく、直島が世界的な人気小説の舞台になっていることをアピールし、将来は映画撮影の誘致にも結び付けようと期待が高まっています。



ボランティアによる清掃活動

## Information

- ・整備場所 直島町宮ノ浦2310（宮浦港より徒歩1分）
- ・建物 木造平屋建て・約82㎡
- ・入館料 無料
- ・休館日 年末年始（予定）
- ・開館時間 9：00～17：00  
（入場は16：30まで）
- ・Tel/Fax 087-892-2299  
（直島町観光協会）
- ・Home Page <http://www.007japan.org/>



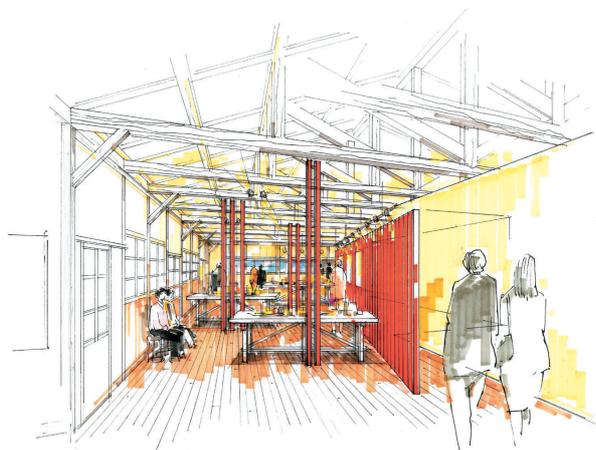
## オープンまでの経緯

- ・平成13年4月 レイモンド・ベンソン氏が直島を取材
- ・平成14年5月 英国で「赤い刺青の男」出版、6月米国で出版
- ・平成15年10月 早川書房より「赤い刺青の男」を日本国内で出版
- ・平成16年3月 直島町、直島町観光協会等が直島町内でロケ誘致気運を盛り上げるため「ジェームズ・ボンドを直島に呼ぶ会」及び「007とボンドカー展」を開催。また、映画化に向けて協力・理解を得るための署名活動を開始
- ・平成16年6月8日 レイモンド・ベンソン氏に協力依頼文書を送付
- ・平成16年6月17日 イオンプロに映画化要望の手紙とプロモーションDVDを送付
- ・平成16年11月18日 署名5万人に到達
- ・平成17年7月7日 007のタペ in NAOSHIMA 開催（007映画誘致トークショー、ボンド・ナイト・パーティー）
- ・平成17年7月24日 「007赤い刺青の男資料館」オープン

## 007赤い刺青の男資料館

資料館では、直島が舞台となった007小説「赤い刺青の男」のストーリー紹介や、作者であるレイモンド・ベンソン氏に関する資料、007の歴代小説本、James Bondグッズを展示するほか、大阪芸術大学の協力を得て、小説に出てくるシーンを再現したオブジェも設置します。

整備運営委員会は、資料館の運営に役立てるため、一口千円の寄付金、展示品の提供や貸与など幅広い協力を求めています。寄付金の振込先は、百十四銀行直島支店普通口座0146237「007資料館整備委員会 松田武重」。問い合わせは、町観光協会事務局（087-892-2299）または県庁国際課（087-832-3027）まで。



007資料館イメージバース

# アイパル香川開館10周年に寄せて

初代専務理事 土井 伸一

アイパル香川開館10周年おめでとうございます。

陶 淵明の詩に

盛年不重来 (盛年、重ねて来たらず)

一日難再晨 (一日、再びあした也難し)

及時当勉勵 (時に及んでまさに勉勵すべし)

歲月不待人 (歲月は人を待たず)

という詩があります。



開館以来、語学研修や日本語講座の充実、国際交流フェスタの開催、外国人への様々なサービスの提供、その他アイパルならではの事業の充実等、この10年間、陶 淵明の詩の心にあるとおり、一日一日時期を失うことなく充実した事業運営に努められていることに心から敬意を表したいと思います。

私が国際人の一員になったのが丁度十年前、アイパルにお世話になった時からでした。遅きに失した感もありますがそれからは急速に進展し、十年間で海外旅行10回、実に18カ国を訪問しました。アイパル時代に設立した国際交流茶の湯研究会も継続し、昨年、日中友好提携10周年記念式典に西安で交流茶会を催したのも素晴らしい思い出です。

また茶道を通じて毎年、国際交流フェスタでの茶席、海外からの青年研修団の我が家での日本文化体験研修(茶道)受入れ等々、国際交流の楽しみを満喫している今日この頃です。

外国人との出会い、もてなし、大切なのは言葉ではなく心です。フィンランドで学んだ「あらゆるものを見、あらゆることを聞き、あらゆることを経験した。心が通い合えばどんなに遠くても近い。」という言葉がとても印象的でした。

外国で感じたことの一つに、日本人は外国人に対してあまりにも腰を引きすぎている。遠慮をしすぎている。ヘルシンキの空港で出迎えられたとき、抱き合って挨拶を受ける。その時、「土井さん、日本人はどうしてお尻を引くのですか？」確かに見ると格好が悪い。「日本人ははずかしがりやで、照れ屋なのですわね」。返す言葉がありませんでした。奥ゆかしさ、謙虚さは美徳かもしれませんが、度が過ぎるとかえって失礼になるかもしれません。

もっと前向きに、堂々と、勇気を持って、遠慮なく接することも大切なことではないでしょうか。

雑感を述べるに止まりましたが、アイパル香川が外国人にとって最高のオアシスになるとともに、県民の皆さんにとっても、より一層国際化に対する知識や経験を得る場になりますよう心から祈念し、アイパル香川開館10周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

かがわ  
国際フェスタ2005 10/30 SUN  
9:30~16:00

今年は原点に戻り、中央公園とアイパル香川を会場に開催します。

ただいま、内容を検討中です。どうぞ期待！



※写真は昨年の「かがわ国際フェスタ2004」のものです

お申込み、お問い合わせはアイパル香川まで、電話等で。

TEL: 087-837-5908 (月曜休館、月曜祝日の場合はその翌日)

**アイパル香川外国語講座  
9月期受講者募集中**

9月期は9月3日(土)から始まり、英語、スペイン語、中国語、フランス語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語、イタリア語 全8ヶ国語39クラスの講座が行われます。

入門、初級、中級、上級などそれぞれのレベルに合わせたクラス選択ができます。また時間帯も10時~12時、13時~15時、18時~20時などいろいろありますので、都合の良い時間帯をお選びいただけます。

なお、講座は4月期、9月期、1月期となっております。年3回受講者の募集をしていますが、9月期及び1月期は継続受講者を優先とします。

詳しいことをお知りになりたい方はアイパル香川までお問い合わせください。

**外国人のための人権・法律相談**

弁護士、人権擁護員等が相談に応じます。

◆日時: 7月15日(金)、8月19日(金)、9月16日(金)  
いずれも13:00~15:00

◆場所: アイパル香川会議室

◆申込: 事前予約が必要で

**外国語夏期特別編  
タガログ語・タイ語受講者募集**

タガログ語、タイ語の挨拶や日常会話についての講座を開催します。

◆日時: 7月9日(土)、16日(土)、23日(土)  
※3回通しの講座です  
タイ語 10:00~12:00  
タガログ語 13:00~15:00

◆講師: 県内在住留学生等

◆定員: 各30名(先着順)

◆場所: アイパル香川3階会議室

◆受講料: 3,000円(3回分 テキスト代含む)

※お申し込み時にお支払いください

**第16回外国人による日本語評論大会  
出場者募集!**

在県外国人の方々に「香川」や「日本」についての考えや意見を日本語で発表していただけます。当日は、たくさんの方々のご来場をお待ちしております。

◆日時: 9月17日(土)13:00~16:30

◆場所: アイパル香川3階大会議室

◆応募資格: 県内在住の外国人

◆申込締切: 7月21日(木)必着

◆入場: 無料

※詳しくはアイパル香川までお問合せください

**中学・高校生夏期英語セミナー  
受講者募集**

中学・高校生を対象とした5日間連続の英会話集中講座を開催します。

◆日時: 8月16日(火)~20日(土) 5日間  
中学生クラス 10:00~12:00  
高校生クラス 13:00~15:00

◆講師: (財)香川県国際交流協会専属英語講師  
パトリック・スカンロン  
香川県国際交流員

◆定員: 各30名(先着順)

◆場所: アイパル香川3階会議室

◆受講料: 5,000円(5日間 テキスト代含む)

※お申し込み時にお支払いください

**アイパル国際理解講座**

国際交流員と楽しく各国文化を学びませんか?

①“英・米~ズバリ!教えます。両国の違い~”  
7月9日(土) 10:00~12:30 (800円)

②“I-PAL カフェ”  
7月9日(土) 13:00~15:30 (500円)

①、②ともアイパル香川にて開催

③“アルゼンチンの日常in 野外”  
7月16日(土)栗林公園、7月23日(土)玉藻公園  
いずれも11:00集合(2回1,000円)

※詳しくはアイパル香川までお問合せください

# Information

**WELCOME PARTY**

先日、香川に到着した海外技術研修員の歓迎会を開きます。皆様ふるってご参加ください。

◆日時: 7月10日(日)13~15時

(受付12:30~)

◆場所: ホテルニューフロンティア

◆会費: 一般1,500円 外国人、学生500円

(飲み物、軽食)

◆主催: 仏生山国際交流協会

◆申込: 江郷 Tel/Fax: 087-889-1332

Sogob6@ae.wakwak.com

**詫間ドリアンクラブの例会**

国際交流に関心のある人達が月に一度集い、楽しいひとときを過ごします。

◆日時: 7月17日(日)ラオスの話とラオス語会話

8月21日(日)天ぷらと流しそうめん

9月18日(日)マレーシア料理

10月16日(日)ラオス料理

時間はいずれも14:00~16:00

◆場所: 松崎コミュニティセンター(詫間駅東側)

◆会費: 500円

◆問合せ: 矢野 伴治

Tel/Fax: 0875-83-5289

E-mail: yano99627@yahoo.co.jp

**丸亀リンゴクラブの例会**

国際交流に関心を持つ人々が月に一度集まり、外国人のゲストの話聞き、英語を使って外国人と意見を述べ合い、交流をする会です。

◆日時: ①7月17日(日)

②8月21日(日)

③9月18日(日)

④10月16日(日)

時間はいずれも14:00~16:00

◆場所: 丸亀市生涯学習会館4F第2講座室

◆ゲスト: ①ニコラス・ホーキンス(アメリカ)

②タワン・プーツムラン(タイ)

③アンドリュー・テイラー(ニュージーランド)

④ララ・フラワー(ニュージーランド)

◆トピック: ①アメリカの表現を高める教育  
②私の人生と日本での研究  
③私の目標、国際化  
④マオリ・カルチャー

◆参加費: 1,000円

◆問合せ: 中塚正信

Tel: 0877-46-5694

**三野町国際交流協会の外国語講座**

各種英会話、中国語、フランス語、韓国語の4月期講座を7月まで開講しています。次回の学期は9月からまた始まりますので、ぜひご参加をお待ちしております。詳しくは下記までお問い合わせください。

(財)三野町国際交流協会

Tel: 0875-72-1192

Fax: 0875-56-2611

E-mail: mino@main.or.jp

**第12回日中交流スピーチ大会  
出場者募集!**

日本人が中国語で、中国人が日本語で自由なテーマで弁論します。見学にもぜひいらしてください。

◆日時: 10月16日(日)14:00~16:00

(受付13:30~)

◆場所: アイパル香川

◆費用: 無料

◆参加賞: 出場者全員に賞状と賞品

◆締切り: 10月5日

◆主催: 高松日中友好協会

Tel/Fax: 087-834-9729

**国際協力中学生・高校生  
エッセイコンテスト2005**

JICAでは中学生、高校生を対象に開発途上国の現状と国際協力の必要性について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきかを考えてもらうことを目的として、国際協力に関するエッセイ

コンテストを実施しています。上位入賞者の方には開発途上国への研修旅行が贈られます。

詳しくは <http://www.jica.go.jp/classroom/index.html>

締切: 9月17日(金)当日消印有効

※入賞者には1週間の海外研修旅行が贈られます。

◆応募締切り: 9月22日(木)

◆問合せ: Tel: 087-833-0901 JICA 四国

**JICA 第26回  
国際協力フォトコンテスト**

写真を通して開発途上国や国際協力への関心と理解を深めていただくとともに、入賞作品を国際協力に関する広報素材として活用させていただくことを目的としています。

◆募集テーマ

①国際協力: 日本人と開発途上国の人々との技術協力や交流の現場を撮影した写真

②一般: 開発途上国の自然や文化の中で生きる人々などを撮影した写真

詳しくは <http://www.jica.go.jp/classroom/index.html>

◆応募締切り: 9月15日(木)(当日必着)

◆問い合わせ: Tel: 087-833-0901 JICA 四国

**MIKANIC JAPAN  
TOUR IN SANUKI**

さぬきうどんや香川を世界的にPRしようと香川出身の若者達がニューヨークで立ち上げた“SANUKIプロジェクト”が、ニューヨークを拠点に活動している南アフリカ出身のバンド、MIKANICのライブを開催します。(SWJOが友情出演)

◆日時: 7月20日(水)18:30開場 19時開演

◆場所: オリーブホール(南新町)

◆入場料: 前売3,500円、当日4,000円

前売券取扱場所: グッド・ウィル・コレクション(高松市立美術館南 087-822-7406)他

◆問い合わせ: MIKANICをSANUKIに呼ぶ会事務局

Tel: 087-863-2318 (伊藤)

SANUKIプロジェクト香川支部

Tel: 090-3787-4650(ゴツツィル)

## 香川県での任期を終えた国際交流員より ごあいさつ

「行ってきます！」

デイビット・ゴツィル



私の香川県での国際交流員としての3年間の任期がそろそろ終わろうとしています。北米大陸の真ん中にあるロッキー山脈の環境に恵まれたコロラド州を出て、ぽつぽつと散らばっている山のある香川県に来て早くも3年が経ちました。最初はいろんな大変なこともありましたが、今振り返ってみると…

- 初讃岐弁体験：「何がでっきょん？」「えっ？！」
- さぬきうどん：「麺が落ちる。私のお箸が壊れているかな？」
- 高松市内移動：そこまでもチャリでいく？

…今、これらすべてのことがあるからこそ香川県が良かったと思っています。この3年間でいろいろな仕事を通じて素晴らしい経験を重ね、良い思い出を作ってきました。上司や同僚は、私が香川県に来た最初のころからいつも優しく、困ったことがあるとすぐに助けてくれました。おかげで楽しく有意義な仕事をする事ができました。

私の仕事の目的は地域レベルでの国際交流を推進することです。アイバル香川での語学講座や国際理解講座、県内の小学校訪問やグローバルセミナーを通じて多くの県民と触れ合うことができて本当に良かったです。中でも「かがわ国際フェスタ」に参加した経験がとても深く印象に残っています。私はそのフェスタで食べ物を通じて香川の人たちと楽しく交流したいと思い、アメリカで大人気のタコスを作りました。売り始めてすぐに行列ができ、たくさんの受講生や知り合いが食べに来てくれました。「おいしい！」という声を聞いてとてもうれしかったです。

こうして讃岐の人々と交流して、いろいろなことを教えてもらって、本当に素晴らしい3年間を過ごすことができました。今年の7月末に国際交流員の仕事を終えますが、香川県で経験したこと、香川県のみなさんに教わったことをこれからの私の人生にしっかりと活かしていきたいと思っています。そして、いつかまた私のふるさとでもある香川県に帰って来たいと思っています。そのときは、またあたたかく迎えてくださいな。それでは、行ってきます！

お世話になりました

サムエル・ローゼン (イギリス)



今年の8月で3年の任期を満了し、香川県を出て、イギリスに帰ります。小学生、高校生、そして社会人として合わせて4年近く香川県に住んだことがあり、本当に私の心の故郷になってきています。4年というのは私の人生の約2割に上りますが、当時の思い出の香川も現在の香川の印象もいつまでも色濃く心に残ります。

小学生の私が母と一緒に初めて香川県に来た、瀬戸大橋開通前年である1987年からこの17年の間でこの香川県は大きく変わりました。特にこの5年で県庁の新館、シンボルタワー、高松駅、サンポート高松などの高層ビルや建築物が建てられ、町の様子と雰囲気も大きく変わりました。これは「時代の流れ」ですが、時々、外国人が珍しかった時代の香川の風景や様子が恋しくなってきます。と言っても、高松の中心部から離れると昔ながらの「田舎」と言って良いようなところは今でも残っています。日本の各地が都市化されてきているなか、ふるさと、自然、田舎といったところが懐かしく、良いものとされてきています。香川県にはそのようなところが残っているので、個人的にもその懐かしさを感じて、その貴重な「田舎」とそれに繋がる「伝統」を今後とも大切にすべきではないかと思っています。「伝統」と言えば、京都、奈良というイメージがあります。しかし、京都の魅力は寂れてきています。点々とするお寺や神社にはそれなりの魅力がありますが、日本の最も美しい庭園やお寺は鉄筋コンクリートと電線に囲まれ、庭々の借景はネオンの看板、アパートやマンションになっています。一方県内にある88ヶ所の霊場の殆どは自然に囲まれています。香川県が誇る大窪寺や琴平の金丸座や金毘羅宮などのような大自然に囲まれた文化財もあふれています。香川県から離れていても、その良さを折にふれ宣伝していきたいと思っています。

3年間香川の人々と交流したり、一緒に暮らしたりしてきて、IPALの英会話講座や国際理解講座を通じて知りあった生徒の皆さん、一緒にCDアルバムを作ったバンドメンバー、BBQパーティーに来てくれた人達には感謝してもしきれません。皆様との思い出は一生忘れられない宝物となるでしょう。

これからの草の根国際交流は更に重要になってきているに違いありません。初代の国際交流員である母は今でもKAGAWA アンバサダーとしてその縁が続くように活躍して、私も引き続き、これからも積極的に、二代に渡る(三代にわたる)香川とイギリス、日本とイギリスの縁結び、交流、友好関係の振興に努めていきたいと思っています。これからも皆様のご協力、ご指導宜しく申し上げます。三年間お世話になり、どうもありがとうございました。

### アイバル香川

香川国際交流会館

〒760-0017

香川県高松市番町1丁目11番63号  
TEL 087-837-5901 FAX 087-837-5903

開館時間/ (火)～(日) 9:00～18:00

休館日/月曜日・12月29日～1月3日

(月曜日が休日の場合は開館し

原則として翌日の火曜日が休館)

I-PAL KAGAWA  
KAGAWA INTERNATIONAL EXCHANGE CENTER

1-13-63 Bancho Takamatsu Kagawa 〒760-0017

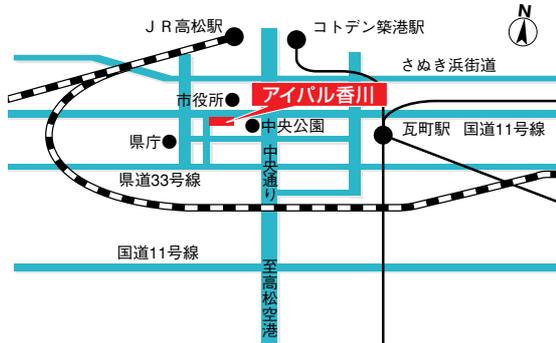
OPEN/TUE～SUN 9:00～18:00

CLOSED MON・DEC.29toJAN.3

If monday is a public holiday,

the center will be opened on this day.

But closed on the following day.



今年も暑い夏がやってきました。クールビズも良いのですが、シエスタ(昼寝)の習慣が残る国々が羨ましい今日この頃…。スペインなど南欧の国ではお店やレストランもこの時間帯は休みになるところがあるそうです。ゆったりした時の流れに身を任せてみるのも時には良いかもしれません。

2005年7月号・通巻第89号

編集・発行

(財)香川県国際交流協会

E-mail:i-pal@i-pal.or.jp

URL:http://www.i-pal.or.jp/

高松市番町1丁目11番63号

TEL.087-837-5908 FAX.087-837-5903